

「自然エネルギー大学リーグ」設立趣意書

大学は高等教育機関として教育・研究と共に社会貢献が求められます。持続可能な社会づくりは人類共通の目標であり、これに貢献することは大学共通の使命といえます。その一つとして、人類生存を脅かす気候変動問題を解決するために脱炭素社会を目指すことがあります。地域に存在する自然エネルギーを活用することで地域分散型のエネルギー供給体系に社会を変えてゆくことができます。

化石燃料や原子力ではなく、自然エネルギーの積極的な利用は世界の動きです。世界の電力供給に占める自然エネルギーの割合は2019年には26.4%にまで増えました。日本も2019年には18.5%になりましたが、欧州諸国には遅れをとっています。日本は自然エネルギー資源に恵まれているので、脱炭素化に向けて、本来は再エネ100%のモデルを示すことが可能です。

国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成には、社会の各主体が積極的に活動する必要があり、大学もその一員として活動することが求められます。エネルギー問題は地球温暖化防止とともに、生活の基盤、生産の基盤として重要であり、SDGsの多様な目標に関連します。この問題に大学として取り組むことには大きく2つの意義があります。

まず、大学自らが行動することで、大学以外の企業や自治体、公的組織、NGOなど、他の主体に影響を及ぼせることです。社会を構成する各主体が、持続可能な脱炭素社会に向けて再エネ100%を目指し活動してゆくことで、社会が変わってゆきます。それを大学が牽引することができます。

そして、高等教育機関の使命として、再エネ100%社会に変えて行く人材の育成が求められます。そのためには机上の学問だけでなく、実学として、実際に個々の大学が自然エネルギー100%を実現し、模範を示すことが必要です。これが生きた教育になります。

具体的には第一段階として、電力に関して自然エネルギー100%のRE100大学を目標とします。ここで、REとはRenewable Electricityです。まず、宣言をして無理のない形で一步一步進めます。そこで、大学間の連携と協力が大きな助けとなります。その先は、熱や移動手段も含め、大学の使う全エネルギーを自然エネルギーに転換することを目指します。

次の参加条件に該当する大学で、共に実行するべくリーグを結成したいと考えています。また、この提案を海外の大学にも送り、国際的なネットワークも構築したいと思います。

1. 大学（あるいはキャンパス）の使用電力量を目標に、2030年から2040年を目途とする自ら定める年限までに、自然エネルギー電力を生産もしくは調達することを大学として決定し、公表する。
2. 大学としてその具体的な計画を策定し、実行する。

この志を共有する大学、それを目指す教職員・学生、支援する専門家が集い、互いに研鑽する「自然エネルギー大学リーグ」を創ろうではありませんか。多くの方々の参加を期待します。

2021年6月7日

自然エネルギー大学リーグ設立準備会 世話人会（*代表世話人）

原科幸彦*（千葉商科大学学長）、岩切正一郎（国際基督教大学学長）、
岸田宏司（和洋女子大学学長）、高祖敏明（聖心女子大学学長）、
林佳世子（東京外国語大学学長）、金田一真澄（長野県立大学学長）、
曄道佳明（上智大学学長）、越智光夫（広島大学学長）、田中雄二郎（東京医科歯科大学学長）